

関連項目：教育活動プラン①

一人一人が活躍できるあいさつ運動の実践

目的

本校は、元気で明るく活発な児童が多い学校です。そこで、もっと友達同士の輪を広げ、温かい人間関係を育むために、あいさつ運動を充実させることにしました。

内容

● 各学級で話し合っ決めて決めるあいさつ運動（自己決定の場の設定）

今年度、重点項目のひとつとして取り組んでいる「あいさつ」を学校全体で取り組めるように、現教3部会の徳育部会が中心となり年間計画を立てて取り組みました。各学級が1週間ずつあいさつ運動を行うことにしました。実践する際には、取り組み方や評価の仕方等を各学級で話し合ってから行うように共通理解し、各学級の特色を出したり、主体的に取り組んだりできるようにしました。それぞれの学級から、以下のようなアイデアが出ました。



取り組みの工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・1か所だけでなく、いろいろな場所で行う。 ・自作のワッペンやたすきをつける。 ・取り組みを保護者に発信する。（学年便り、とくの日便り等）
評価の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ名人を昼の放送で紹介する。 ・元気よくあいさつできた児童に色画用紙を配布し、学級で台紙に貼っていく。



● SSTを生かしたあいさつスキルの育成（望ましい人間関係の育成）

あいさつがなかなか自分から出来ない原因を教職員で話し合い、本校で取り組もうとしているSST（ソーシャルスキルトレーニング）の第一歩として、あいさつに関するスキルトレーニングを実践することにしました。全学年が共通したスキルを身につけるために、徳育部会の教員が中心となり、あいさつのコツやお辞儀の仕方など、基本的な動作をビデオに撮影し、それを全校放送で流しました。児童は、ビデオ視聴した後、各教室でトレーニングを実行しました。その後、会釈のSSTも行いました。

● 生活委員会によるあいさつへの取り組み（主体的な活動、責任感の育成）

校内のあいさつをより活性化し、定着を図るために、生活委員会でも、全校生への働きかけを行いました。委員会の児童たちは話し合った結果、自主的に以下のような取り組みを行いました。

- ・あいさつレンジャー（ボランティアによるあいさつ運動）
- ・あいさつスタンプラリー
- ・あいさつアンケート

あいさつレンジャーやスタンプラリーの取り組み後には、参加してくれた児童をお昼の放送で紹介したり、参加者名を壁に掲示したりしました。その結果、あいさつを積極的に行う児童が増えました。



成果

こうした取り組みをすることで、主体的にあいさつができる児童が増えてきたように感じています。また、全校生対象のアンケート結果からも、5月と11月を比べると2ポイント上昇しました。伸びはわずかですが、中・高学年の伸びが見られたことが大きな成果であると考えます。児童が自ら考え、自ら行動できるような取り組みを行ったことが、効果的でした。一人一人が活躍できる場を工夫し、自己有用感を高めることで成果につながるということが改めて分かりました。